

- ・応用物理学会放射線分科会医療放射線技術研究会
- ・多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
（首都大学東京大学院人間健康科学研究科量子イメージング技術者養成コース）
- ・首都大学東京大学院人間健康科学研究科放射線科学域医学物理士コース

共催

核医学の現状とこれから：標的アイソトープ治療や最先端イメージング

ごく微量の放射性同位元素を用いて、体の深部にまで及ぶいたるところの病態・生理機能を映し出す核医学診断や、化学的性質に従って体内に分布し目的領域に α 線・ β 線を照射する核医学治療は、90年以上の長い歴史を持ちます。そして現在もなお、新しい技術や応用などの研究開発が盛んに行われています。画像化技術においては、time-of-flight PETの高度化に続いて、全身を同時に測定できるtotal-body PETが登場するなど、放射線を通じて伝えられる患者の情報を出来る限り多く、かつ正確に画像に反映しようとする方向に技術が進歩しています。治療においては、ピンポイントで癌細胞を狙う標的アイソトープ治療（TRT）が、その標的方法や核種が開発・高度化され、現場スタッフは安全な運用を任せられるようになります。そこで、臨床核医学の最前線に立つ核医学専門医のほかに、核医学を支える生物学研究者や物理学研究者を交えて、核医学の現状と期待される今後の展開についてご講演いただきます。

医療放射線技術研究会は放射線物理の医療応用について情報交換することを目的としています。臨床現場に携わる医師・診療放射線技師・医学物理士から計測技術の医療応用を目指している研究者まで広くご参加をお待ちしています。また、本研究会は首都大学東京「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン*との共催であり、本シンポジウムが専門医療人の人材育成の一助となることも期待しております。

開催日：2019年11月16日（土）

場所：首都大学東京荒川キャンパス 大視聴覚室

参加費：無料（懇親会は会費4,000円予定、当日現金を集めます）

定員：100名程度

申込：必要（ご所属・お名前・懇親会参加有無を、jpet@qst.go.jpへ10月末までにお申込）

備考：医学物理士認定機構の業績評価点の対象（コードF1/F2 単位数3）として

出席証明書を発行いたします。認定番号：（JBMP-2019-F-21）

世話人：山谷泰賀（QST放医研）、村石浩（北里大）、牧永綾乃（福岡帝京大）

若林源一郎（近畿大学）、古場裕介（QST放医研）、眞正浄光（首都大学東京）

*多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン連携大学

首都大学東京、東京大学、横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学

医療放射線技術研究会「核医学の現状とこれから：標的アイソトープ治療や最先端イメージング」

プログラム

13:00 ~ 13:25	受付		
13:25 ~ 13:30	開会の辞	柳田 健之 先生	奈良先端科学技術 大学院大学
13:30 ~ 14:00	研修医からみた医療の現状と課題	安谷屋 仁 先生	国際医療福祉大学三田病院 放射線治療・核医学センター
14:00 ~ 14:30	専門医を目指す医師からみた 核医学の現状と課題	大鐘 健一朗 先生	国際医療福祉大学三田病院 放射線治療・核医学センター
14:30 ~ 15:20	標的アイソトープ治療： ^{223}Ra 治療実施の経験から世界の動向まで	高橋 美和子 先生	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
15:20 ~ 15:35	休憩(15分)		
15:35 ~ 16:25	TRT・Theranostics研究の最前線	辻 厚至 先生	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
16:25 ~ 17:15	PETイメージング物理最前線	山谷 泰賀 先生	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
17:15 ~ 17:20	閉会の辞	福士 政広 先生	首都大学東京
18:00 ~	懇親会		